

黒姫山南西ルート山スキー 山行報告

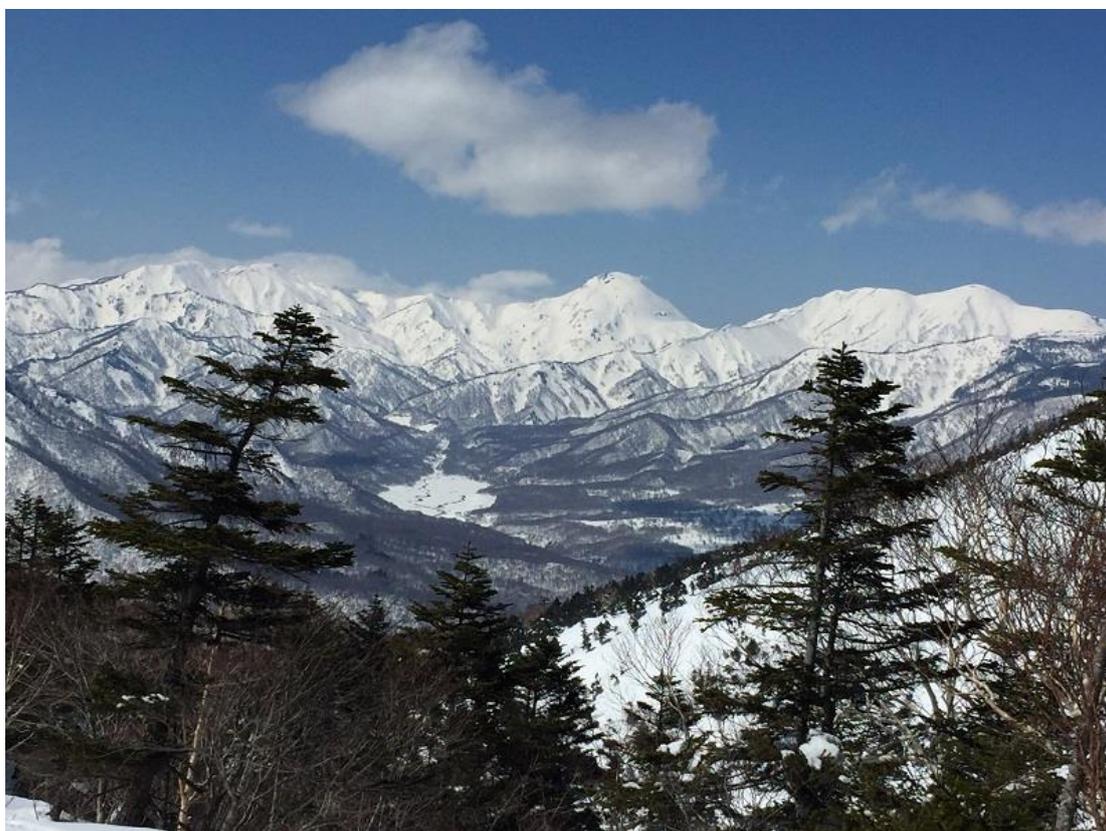
【山城】戸隠・黒姫山（2053m）

【日程と天気】2017年4月2日晴れ 気温山頂で-2℃

【メンバー】CL 菊池典雄・SL 薄井まどか・加藤洋子・滝本昌彦・澤田路子（記）・池田継雄（会員外）

【行程】

千葉 3:00—東部湯の丸（朝食休憩 20分）—信濃町 IC—8:00 戸隠大橋駐車（1140m）8:20—林道—南西登山道ルート—11:30 稜線—12:35 山頂—稜線—滑走—往路の左沢ルート—林道—15:40 大橋駐車場—戸隠中社「神告げの湯」—帰葉



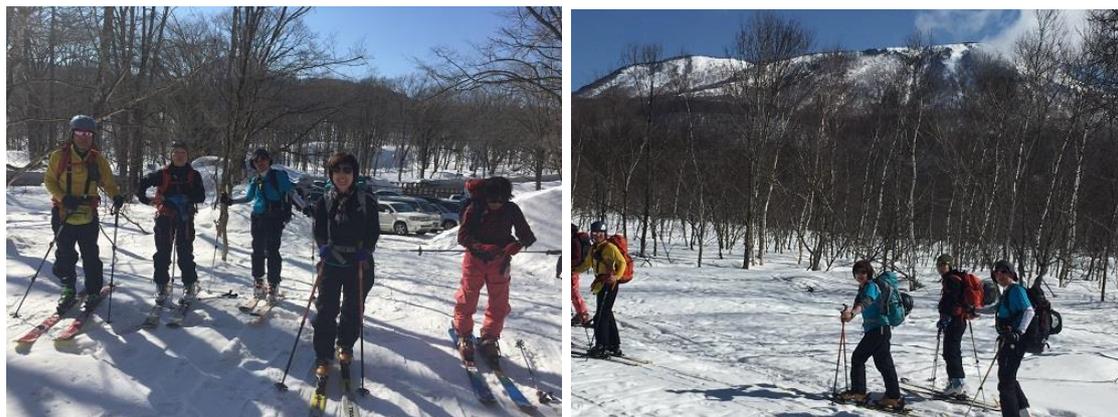
好天の山日和のためか戸隠大橋の駐車場はすでに車が満杯のため路上駐車。

身支度をととのえてまずはワンピッチほど林道に行く。調度いいウォーミングアップだ。締まった雪面に歩きやスキーのトレースがしっかりあり、先行パーティーの姿も前方に見える。ほどなく軽快に我々を追い越すスキーをはいた外



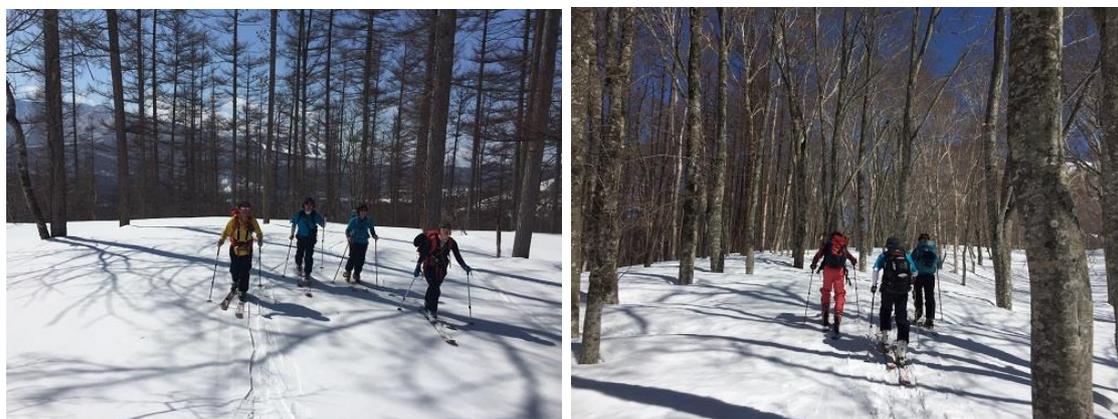
国人の男女 2 人組に気さくに声をかけたリーダーは乙妻山往復ときいてびっくりしていたが、長い足のパワフルな凄いストライドに見とれているうちにあつという間に姿が見えなくなった。まもなくこれから向かう黒姫山の姿が目飛び込んできて、あそこまでかと気持ちを引き締める。

澤田はもともと下手な足前な上に何年かぶりでの山スキー再開であり、ちば山では 2 回目の山スキー。しかも知人から譲りうけた靴とスキーセットを始めて使うとあって、不安いっぱいスタートである。家でしっかり試し履もしたが、スタート時点からなんだか足が重く靴にもいやな違和感あり。



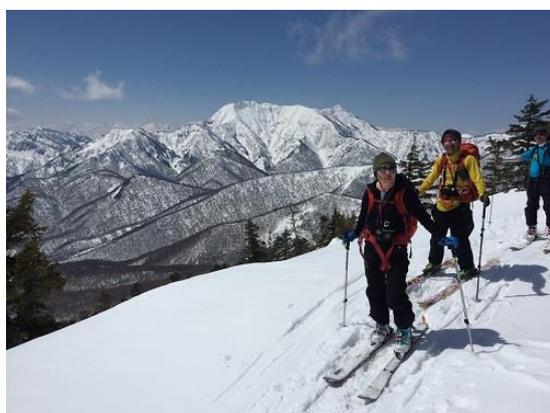
気温も高く登山道入り口に着くころはすでに汗びっしょりとなり、衣服調整をしていよいよ唐松林の登山道ルートに入る。締まった雪面をうっすらと新雪が覆う。リーダーがトップで登りやすい斜面を選びながら、その都度歩き方、急斜面の処理、コースどりのポイントなどミニ講座を交えて登っていく。登る際には常に滑降ルートの斜面状況を把握し、どこをどう滑り込むか考えながら登るのが重要とのこと。なるほどと思うがまだまだそのゆとりはない。

西新道分岐について一息いれ水分補給。やがて周辺の植層がブナ林に変わり気持ちのいい広い緩斜面になると各自自由にコースをとって進む。どの季節でもブナ林は癒される。



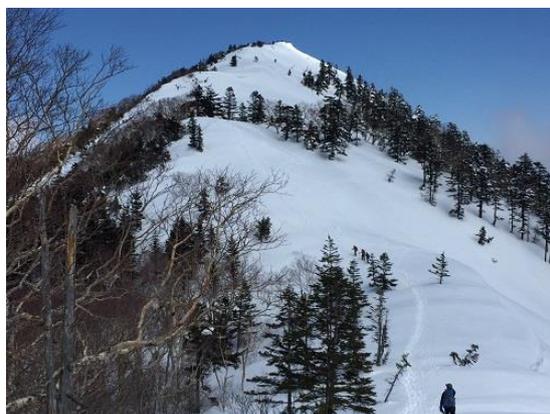
1650mあたりから斜面の勾配が急になり堅くなった雪面を選んでじぐざぐにきつていきな

がら約 3 時間半で稜線に出た後リーダー絶賛のグレートビューポイントまで進んで、しらたま平付近で小休止。確かに青い空と真っ白な雪をいただく焼山、戸隠、妙高、根子 遠くには北アルプスまでぐるり大パノラマの絶景はすばらしく思わず歓声が口をつく。



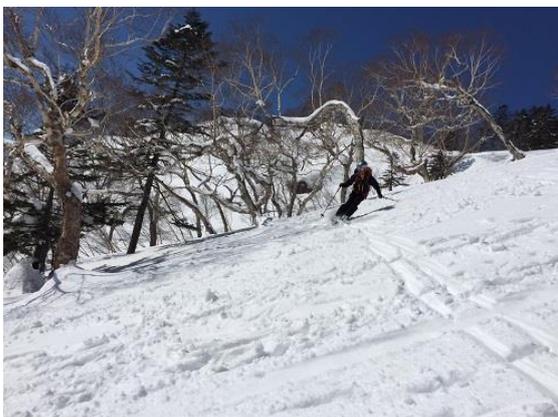
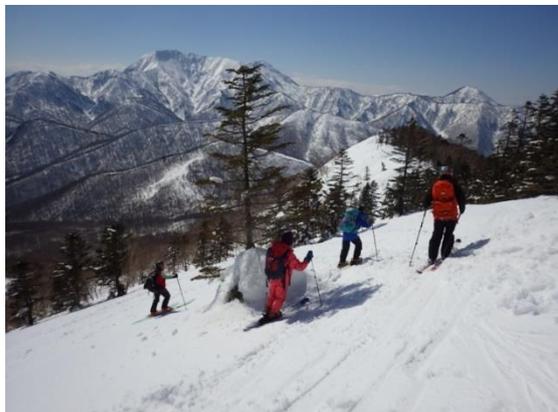
とはいえ澤田はなじまないきつめの靴の中ですでに足が悲鳴をあげ始めており、景色もそっちのけの気分で、やがてはじまる本命の滑りに心中穏やかでなくますます不安増大。

天候にも恵まれ結構順調にきたので山頂を目指せると判断し、まずは直下の鞍部に向かう。この稜線は狭いうえ雪庇をさけるようにしらびそ林の中をつぼ足で歩くコースといっしょになるので、トレースがぼこぼこで小さなアップダウンもあり意外に時間がかかる。でも展望を楽しみながらのこういう稜線歩きはいかにも山スキーらしい。

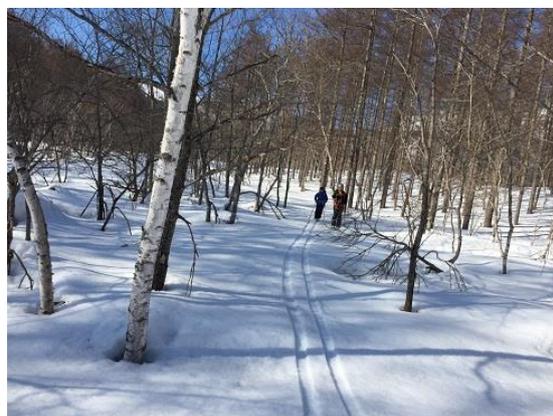


鞍部からは黒姫山初の若手 3 人がつぼ足で山頂を目指し、山頂を踏んでいるリーダーと加藤さん、いっぱいいっぱいの澤田は少し休んで、3 人が山頂から下りはじめたのを確認した後一足先にエントリーポイントまでスキーを背負ってつぼ足で戻る。スキー板が枝に引っかかることしばしばで、かがんだり戻ったりとけっこうめんどくさい。ほどなく若手組がスキーをはいて追い抜いてエントリーポイントで合流。シールをはずしていよいよ滑降だ。

のぞけば最初がまず急斜面。「ザラメ雪なので、スピードも出ないし転んでも安全、大丈夫、大丈夫」とのリーダーの励ましの声にも澤田は身動きならず、丁寧な指示に「むりです！できません！」などなど開き直ってぐずぐず状態。



やっと何とか緩斜面に出た頃には足ががくがくでボーゲンさえも休み休みという情けない現実が待っていた。リーダーの説明によれば往路の尾根はうねりが大きく雪面が荒れていて滑りにくいため左の広い沢地形に滑り込み、終盤はブナとダケカンバの癒しの林間を右方向へ大きく軌道修正し往路に戻ったとのことだった。



他のメンバーの足前なら、細かくきらずにいきなり快適な滑りを楽しめるところを、辛抱強く温かく見守ってくれたリーダーはじめメンバーには感謝、感謝の言葉しかない。

登山口に出た時には足の悲鳴は限界に近く、ザラメ状態で惰性で緩く下る林道脇の林は



ありがたい。車が見えた時には「やっと靴が脱げる！」と心から嬉しかった。

帰り支度をととのえていると朝の外国人二人組が予定通り乙妻山を踏んで戻ってきた。

そのパワーを称賛しいろいろ話していると何と男性は澤田の息子たちが通っていた小学校で外国語の教師をしていたとのことで、さらにびっくりしたのは加藤さんが流暢な英語で

話していたこととその同じ小学校出身だったことだ。世間は狭い。

さくさくと身支度し車に乗り込みまずは温泉。汗を流す中でやっとかちこちになった足がゆるんで人心地がついたが、靴ずれは1円玉大にずるむけだった。

リーダーは4年間この信濃町に赴任していたというだけあって、山だけでなく町の隅々まで庭のように知っていて車中で楽しい街ガイドを聞きながら、その流れで強力一押し「ほんとに美味しいから！」という牛乳のソフトクリームを道の駅「しなの」で食して帰路に着く。澤田の個人的な状況を別にすれば天気にも雪質に恵まれ、グレートビューも堪能できた充実したツアーというまとめになることまちがいない。

(池田追記)

このたびは、会費未納の会員外という立場ではありますが、ツアー報告の機会をいただきましてありがとうございます。

さて、澤田さんが、頂上手前の鞍部にて休憩中に、滝本・薄井・池田の3名にて頂上アタック隊を編制し、12:20に鞍部出発し頂上を目指しました。

頂上へは20分ほどで到着。雪の状況も気温が高めで、緩い雪面で特に問題なし。すばらしい景色を堪能し鞍部で待つ3人に手を振って登頂を喜びました。滝本さんは靴擦れで小休止。帰りもサクサクと調子よく降りてあっという間の黒姫山頂アタックでした。しかし鞍部からスキーを履いて帰る途中で雪に突っ込み前方へダイブしTLTビンディングが初めて外れて雪の中をもがきましたが、恥ずかしい写真を撮られる前に何とか復帰しました。

とにかく天気良し、体調良し、景色良しの最高の春スキーツアーでした。

